



ステキ



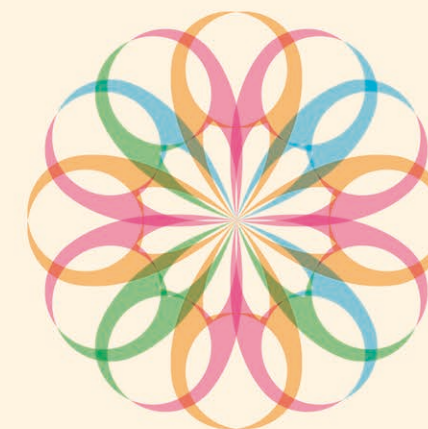
つながる



な輪。



きれいに、輝き
かしこく、かせぎ
大輪の花になる。



やまぐち
農林漁業ステキ女子

やまぐち 農林漁業ステキ女子

YAMAGUCHI WOMAN POWER! VOL.2

発行：2021年3月
発行元：山口県農林水産部 農林水産政策課 農山漁村女性活躍推進班
〒753-8501 山口県山口市滝町1番1号
TEL：083-933-3370
FAX：083-933-3339

やまぐち 農林漁業ステキ女子

とは

山口県内には、自身の「ステキ・スタイル」を持ち、農林漁業を職業として活躍している女性の仲間がたくさんいます。私たちは、「きれい」「輝き」ながら、「かしこく」「かせぐ」ステキ女子を目指して、経営発展につながるさまざまな取り組みを展開しながら、農林漁業の魅力を発信していきます！

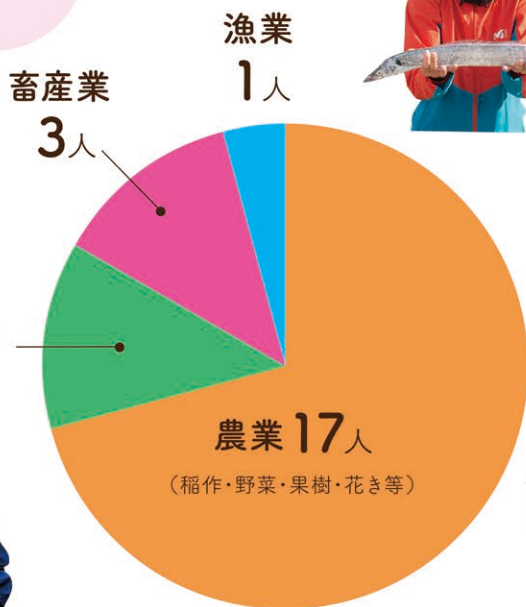


やまぐち
農林漁業ステキ女子

Q 人数は？

24人
(令和3年1月末現在)

Q 職種別の割合は？



Q 加工事業に取り組んでいる？



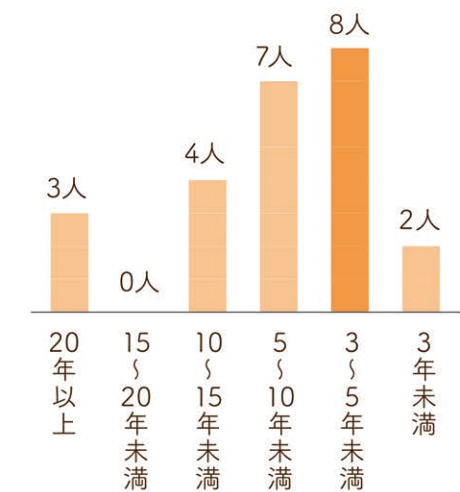
全体の半数以上が取り組んでいます♪



Q 年代は？



Q 経営参画状況は？



やまぐち
農林漁業ステキ女子

「きれいに、輝き、かしこく、かせぐ、大輪の花になる。」をコンセプトに、大地の輝き(だいだい色)、森林の輝き(緑色)、海の輝き(水色)、そして女性の輝き(桃色)を、山口県の「山」と「Y」、また人が両手を挙げてハイタッチする姿をモチーフに図案化しました。すべてのステキ女子がつながり合うことで大輪の花を咲かせる様をイメージした応援花火です。

- もくじ
- やまぐち農林漁業ステキ女子とは..... 01
- 私の「ステキ・スタイル」を紹介します！
- 【農業】 山中歩さん..... 02
 - 【農業】 須田加弥子さん..... 04
 - 【林業】 梶原優唯さん..... 06
 - 【畜産業】 齋藤めぐみさん..... 08
 - 【漁業】 小林望さん..... 10
 - 【農業】 長尾智美さん..... 12
 - 【農業】 久保伶名さん..... 13
 - 【林業】 園田智子さん..... 14
 - 【コラボ】 上妻あかねさん..... 15
- 地域女子会2020の取り組み..... 16
- やまぐち農林漁業ステキ女子おすすめレシピ..... 18
- 地域デザイナーとのコラボ..... 20



いちご本来のおいしさを届けたい。

岩国市・山中 歩さん

農業は環境を支える大事な職業。

私が農業に興味を抱いたのは、好きなことも得意なこともなく、進路が見いだせなかった中学時代。砂漠緑化に取り組む研究チームのテレビ映像を見て、農業の大事さを知りました。母の実家が梨農家で、おじいちゃんの育てる梨が大好きだったのも影響したと思います。将来は農業をやることに決めました。でも、受験したのは進学校、大学では植物病理学を専攻し、大学院修了後は農業メーカーに就職。結局のところ、私はすぐに農家になれませんでした。

夫が背中を押してくれた。

ところが、大学院時代に出会った夫は、「農業がしたい」という私の言葉に反応して一年後には会社を辞め、就農準備を始めたんです。まさか、先を越されるとは思いませんでした(笑)。夫は就農地を父親の実家がある岩国市由宇に決め、山口県の就農支援制度を使って茨城県と柳井市の農家でそれぞれ一年間研修。夫の研修が終わるタイミングで結婚し、一緒に就農を果たしました。

人の記憶に残るいちごを目指して。

私たちが目指しているのは、記憶に残るいちご。いつ食べても口に入れた瞬間に懐かしい記憶がよみがえる、おじいちゃんの梨のような味。だから、いちご本来のおいしさを、今日も明日も変わらずお届けできるように、日々データを蓄積して、一株ごとに管理をして、いちごにとってなるべく自然で健全な環境を整えることに集中しています。味をつくっているのは人間じゃなく、いちごなので。私たちはただ、いちごごと向き合うだけです。

死ぬまで農業を続けたい。

収穫の時期は販売が忙しくてなかなか農作業に入れません。本当はこつこつ株の手入れをするのが大好きです。死ぬまで農業を続けられたら、心底思います。諦めかけた時もありましたが、こうして夢が叶って本当に良かった。元気ないちごを育てて、最もおいしいタイミングで収穫して販売する。そんなシンプルなり方で何とかここまでやってこられた私たちが、農業のハードルを下げる一つのサンプルになれたいです。

TAROの
栽培品種は
「さちのか」



「手入れをすると翌日の生育が良くなるんです。やったらやっただけ応えてくれる」と、いちごにたっぷりの愛情を注ぐ山中さん。



「自分が食べて本当においしいと感じるもの」が基準。いちごの味とデータを見ながら常に2人で相談し、何をどう修正するかを決めていく。



TAROでは採れたての完熟いちごを農園併設の直売所で販売。購入の際はホームページで「本日のいちご情報」をチェック!



まぜて食べても
とっても美味♪

農閑期の商品にと昨年開発したジェラートは、周防大島の養蜂家、周南の酪農家とコラボした、それぞれの素材のおいしさを味わえるこだわりの3層構造。



やまなか あゆみ
山中 歩さん

TARO
山口県岩国市由宇町港2-19
<https://taro-ichigo.com/>

就 業 年：2009年
経営品目：いちご、加工品(ジェラート)
栽培面積：20a



山中さんのあそび一日

1981年、大阪府出身。中学2年生の時に農業をやると心に決める。近畿大学農学部で植物病理学を専攻し、筑波大学大学院に進学して農学修士号を取得。大手外資系農業メーカーで研究員として働いた後、2009年に農業研修を終えた夫と結婚して岩国市由宇で新規就農を果たす。1男2女の母。

5:00	起床/家事
7:00~	朝食/家事/子どもを送る
8:30~	出勤/収穫作業
10:00~	選別作業
11:00~	販売/選別作業
12:00~	昼食
13:00~	販売/選別作業/発送準備
17:00~	子どものお迎え
夕食/入浴/家事	
23:00	就寝

自宅前の畑で
大事に育てる唐辛子が
加工品の主役



マニアックなご主人は唐辛子の魅力にハマリ、各地から取り寄せた50種類もの品種を育てているそう。



グルグルグリーンカレーペーストは、グルグルかき混ぜるだけでおいしいグリーンカレーができあがる優れもの。自家栽培唐辛子、周防大島産のハチミツとレモンを使った、ありそうでなかった純国産ホットハニーソースも開発中。



人気のグリーンカレー。2013年から活躍している中古のキッチンカーは、観光シーズンは須金、オフシーズンは街に下りてイベントに出店。



今年は旧自治会館を
改修して加工場を整備

地域で使われなくなった建物や農地も
“グルグル循環”させようとしている。



グルグル循環する 里山暮らしを実現。

周南市・須田 加弥子さん

農業とは無縁だった。

同い年の夫とは、ストリートダンスのサークルで知り合いました。群馬県出身の夫は、田舎が嫌で東京の大学に進学したわりには方言丸出しで、純粋な人でした。卒業後、私はアパレル、夫は出版の仕事に就いて、結婚後は千葉県松戸市から都内へ通勤。一般的な都会のサラリーマン生活を送っていました。そんな私たちの意識が変化したのは、子どもの誕生がきっかけでした。親になって初めて、食の大切さに気づいたんです。

震災をきっかけに移住。

子どもに安全なものを食べさせたくて、虫嫌いだったのに近くの市民農園で野菜を育てるようになり、ついに兼業農家の夫の実家へ帰ることを決めました。そんな矢先に、大地震に見舞われて。ショックでしたね。福島に隣接する群馬への帰省を諦めた私たちは、社員募集をしていた周南市須金地区の観光農園にたどり着き、果樹栽培を学ぶ目的で移住しました。もともとは群馬に帰る前提だったんです。でもこの通り、今ではすっかり地元民(笑)。

自然の流れの中にいる。

私たち、物事を深く考えないから何でもできるんですよ。キッチンカーでお弁当の販売を始めたのは、レストラン難民になっている須金フルーツランドのお客さんを見かねたこと。農園を辞めて新規就農したのは、料理に使う食材の無農薬栽培に専念するためでした。ところが鳥獣被害でうまく野菜ができなくて、猿も猪も食べない唐辛子栽培に特化。その結果、自家栽培の唐辛子で作るグリーンカレーが誕生しました。

加工品で里山を元気に。

「流れ」といえばそうですけど、加工品には大きな可能性を感じています。商品が売れば、原材料が必要になります。鳥獣害に強い唐辛子やハーブを育てる人が増えたら、遊休農地が活用できて、地域に仕事が生まれて、移住者も増えるかもしれない。食べる人も、生産者も、加工者も、みんなが笑顔になれるサステイナブル(持続可能)な循環を広げ、地域を元気にしたいと思っています。子どもたちの故郷を未来につなぐために、役に立てたら最高です。



すだ か や こ
須田 加弥子さん

Fu do ku kan Bamboo
山口県周南市須万2460-6
<https://www.fudokukanbamboo.com/>



就 業 年: 2014年
経営品目: 唐辛子(約40品種)、野菜、水稲、加工品、飲食
栽培面積: 約20a

須田さんのある一日

1978年、千葉県出身。短大卒業後アパレル会社に就職するも、退職して靴のデザインを学び直す。靴メーカーでデザイナーとして働きつつ、学生時代から交際していた夫と2006年に結婚。2007年に長女、2010年に長男を授かり、東日本大震災をきっかけに2011年8月に山口県周南市へ移住。

6:00	起床/家事/朝食
7:30	子どもを送り出す
8:00~	出勤/仕事(加工)
12:00~	昼休憩
13:00~	仕事(加工)
18:00~	帰宅/家事
	夕食/入浴
22:00	就寝



キレが
よくなるように
念入りに…

道具の手入れも大事な仕事。「できないことができるようになるのが楽しい。わからないことがわかるようになるのが楽しい」と、何事にも前向き。



「一度人の手が入った森はきちんと管理しないと」。仕事に就いてから森林管理に対する意識がより強くなったそう。



「一通りの仕事は経験してみたい」という梶原さんは木の伐採や搬出に必要な技術の習得、資格取得にも挑戦している。



大好きな
仲間たち

現場の仲間に恵まれたおかげで
楽しく働けているという梶原さん。



決して楽じゃないけど
林業って、楽しい！

山口市・梶原 優唯さん

きっかけは環境問題。

小学生の頃からかな、環境問題をテーマにしたテレビを何度か見るうちに、森林に興味を持つようになりました。環境を守るには森や木が一番大切なんじゃないかと考えて、そういう勉強がしたいと思いました。中学生の時に、友達のお兄さんが通っている山口農業高校の農業祭と一緒に参観してみたら、環境科学科で森や木の勉強ができることがわかって、非農家だし、森林に触れた経験もありませんでしたが、迷わず進学を決めました。

どうしても現場で働きたかった。

いざ入学してみたら、女子はクラスで私一人(笑)。高校生活は孤独だったけど、森林が果たす多くの役割を学び、「やっぱり森林は大切なんだ」と確信しました。公務員の勉強もしましたが、私は現場で働きたいと思い、就職を希望。でも、それらしき求人は学校に一件もなく、途方に暮れました。そんな私の転機となったのは、3年生の夏に参加したやまぐち森の仕事見学ツアーでした。山口県西部森林組合の永見優子さんに会い、アドバイスをもらえたおかげで、山口県中央森林組合への就職が叶ったんです。

厳しさもあるけど、林業は楽しい。

私は現在防府班に所属して、地ごしらえや植林、下刈りなどの作業を行っています。実際に働いてみると、学校で習ったことは違うことが多々ありますね。林業が成り立つことの難しさも知りました。収入のわりにきつい仕事だし、ケガのリスクも高い。でも、林業をもっと知りたいと思うし、毎日がとても楽しい。林業の世界でこれから何ができるのか、自分なりに模索しています。

人間関係の大切さを実感。

そして今、つくづく思うのは、私は人に恵まれているということ。班のみんなが優しく大らかで、仕事がやりやすいんです。体力的にきつい仕事だから、現場の雰囲気が悪かったら辛いだろうけど、班の人間関係がとってもいいので幸せです。今春は私と同じ山口農業高校卒の女の子が班に入ってくる予定。早く一人前になれるように、技術的にも成長したいと思っています。

かじ はら ゆい
梶原 優唯さん

山口県中央森林組合山口総合支所
山口県山口市大内長野1978

就 業 年：2019年 経営品目：森林施業
所 属：現場作業員

2000年、山口県山口市出身。小中学生の頃に環境問題に興味を持つ。県立山口農業高校環境科学科森林資源コースで森林や林業について学び、2019年に自ら志願して山口県中央森林組合に新卒採用される。県内ではまだ数少ない女性現場作業員で、かつ最年少。	6:00 起床/朝食/身支度 7:00~ 支所へ出勤/準備 8:00~ 仕事 10:00~ 休憩 10:30~ 仕事 12:00~ 昼休憩 13:00~ 仕事 15:00~ 休憩 15:30~ 仕事 16:30~ 片付け/支所に戻る 17:10~ 帰宅/入浴/食事/自由時間 23:00 就寝
---	---

梶原さんのある一日

夢叶い、毎日が幸せ。

柳井市・齋藤 めぐみさん



ストレスフリー
だからなの
牛がとっても静か

齋藤牧場では繁殖牛を完全放牧で飼育しており、ひと山を丸ごと放牧に使用している。



子牛も齋藤さんが
大好き♡



のびのびと育つ牛たちは元気いっぱい！「かわいくて仕方ない」と齋藤さん。



牛のふんは堆肥にして田んぼへ、育った稲は牛のエサにと、循環型農業を実践。



エサやり、牛舎の掃除、母牛の繁殖管理、子牛の哺育・育成、経理・事務と、何でもこなす。

完全専業主婦だった。

夫の家は代々水稲農家で、祖父の代に畜産をはじめ、義父、夫と規模を拡大して現在約150頭の黒毛和種を育てています。私は高校を卒業してからずっと専業主婦。夫も両親も手伝えとは言わないし、牧場に足を踏み入れることなく子育てに専念してきました。ところが、十数年前に義父が他界。牧場を一人で切り盛りする夫が気になったのと、遊び相手がいなくて退屈していた下の子の新しい遊び場を求めて、結婚して初めて牛舎に行ってみたんです。

まさかの衝撃！夢の仕事が目の前に。

するとそこにあったのは、母牛の出産シーン。衝撃でした。実は私、助産師になるのが夢だったんです。人間じゃなく牛だったんですけど笑、こんなに近くにやりたい仕事があった！下の子が保育園に入るのを待って牧場を手伝いはじめ、家畜人工授精師の資格も取得しました。数年後には従業員さんを雇うようになり、現在は夫が水稲、私が畜産と、完全に仕事を分担しています。

やりたいことをやれる、充実の日々。

種付けや分娩介助も全部自分でやりますよ。お産にかかわる仕事できて、毎日がとても充実しています。牧場に來るのが楽しくて仕方ないんです。私には農業経験がありませんが、長年培った子育てのスキルと経験がここで活かせる！自然や動物と常に触れ合って、生のエネルギーを感じることができ、この仕事の大きな魅力です。好きなことをしているから、牛にも常に心地良い環境を整えてあげたいと思います。自分も牛も喜ぶ仕事を目指しています。

目指すは農家の新「3K」。

そして、おしゃれ心も大切にしたい。私はいつもきちんとお化粧をして、ネイルやユニフォームにも気をつけて、女子力をキープしつつ農業を楽しみたいと思っています。農業ってよく「ぎつい、汚い、危険」と言われるけど、ある意味自由なんだから、自分次第で「かわいい、きれい、かっこいい」の「3K」にもできるんです！農業もおしゃれも妥協せず、自分らしく輝きましょう！



さいとう
齋藤 めぐみさん

齋藤牧場
山口県柳井市伊保庄2306

就 業 年：2010年
経営品目：畜産、水稲(25ha)
飼育頭数：繁殖牛約90頭、育成牛約60頭

1981年、山口県柳井市出身。高校の同級生だった夫と結婚し、専業主婦に。子どもは現在、大学3年と1年、高校1年、中学2年。2010年に就農して家畜人工授精師の資格を取得し、4年ほど前から本格的に畜産に従事。コンディショニングトレーナーとしても活躍中。

齋藤さんのおる一日

- 5:00 起床/自由時間
- 6:00~ 家事/朝食
- 8:00~ 仕事
(エサやり、牛舎の掃除等)
- 12:00~ 昼休憩
- 13:00~ 仕事(経理等)
- 16:00~ 仕事(エサやり)
- 19:00~ 帰宅/家事/夕食/入浴
- 22:30 就寝